

鶴岡市地域まちづくり未来事業 特徴的な取組の紹介

【藤島地域】 庄内農業高等学校地域連携事業 (庄農うどん大作戦)

【事業年度：R1～】

取組の背景や経緯

■取組の背景

庄内農業高等学校は藤島地域の中心部に位置し、令和3年には創立120周年を迎え地域に愛されてきたが、少子化や人口減少で地域の活力が減退する中、同校においても入学者の減少が続いていた。

■取組の経緯

地域ぐるみで同校の取組を応援することで、高校生のパワーを地域活性化に繋げようと、平成25年度に庄内農業高等学校地域連携協議会を立ち上げ、地域と学校が連携してソフト事業に取り組んできた。

事業目的

- 庄内農業高等学校の魅力の向上と入学者数の増加
- 農業後継者の育成、食産業の継承と担い手増加
- 庄農生の取組を核とした地域活性化

事業概要

庄内農業高等学校地域連携協議会では5つの事業に取り組んでいる。

- ①ユネスコ食文化創造都市鶴岡の魅力体験（在来野菜の栽培や食育体験）
- ②農業の成長産業・6次産業化の支援（農産加工品の開発）
- ③庄農うどん大作戦活動（庄農うどんを活用した地域の活性化）
- ④農・福連携地域交流農園整備（高齢者や障害者等との交流）
- ⑤農業コンテスト出品等PR活動

事業紹介「庄農うどん大作戦」について

「庄農うどん大作戦」は高校生が食品加工の実習で製造してきたうどんに着目し、藤島地域の名物にしようとして取り組んできたものである。当初イベントでの提供に留まっていたが、地域住民からの強い要望に答え、出羽商工会や地元飲食店と連携し、飲食店での提供をスタートした。

■事業効果

庄農うどん大作戦は3年目となり知名度も向上し、地域外からの来客も増えている。提供店は当初の6店舗から令和3年度には9店舗に、食数も1,275食から2,035食と増加し、コロナ禍で厳しい状況の中で賑わいを創出し地域の活性化に貢献している。

また、うどん製造のみならず、生徒がチラシやPOP作成、メニュー開発、接客などを出羽商工会や飲食店などと連携し取り組むことで、経営感覚などの学びも深めている。

■今後の展望

庄農うどん大作戦の取組を継続し、高校生が地域と一緒に活躍することで、学校の魅力発信と地域活性化に繋げたい。



9/10から10/24の期間中に食品加工班（通称うどん部）の生徒が毎週300食分を製造した（R3）

